宮崎県の森林植生について（I）

宮崎大学農学部　宍　戸　元　彦

1. はじめに

森林は，木材を収穫するほかに，国土の保全，水源の涵養，大気の浄化，騒音の防止，気候の緩和，塵埃の沪過などの公益的機能を果たすとともに，風景観賞や，保健休養など国民の健康面ならびに精神面に寄与する役割は，はかり知れないものがある。

我国においても近年増大しつつある人口と工業化，都市化の進むにつれて，自然は破壊され，国民の自然を求める要求はますます増大し，森林は，木材生産のほかに，森林の多目的利用がますます重要となっている。特に水，土壌保全，保健休養の面において果たす役割を重視しなければならない。

森林は，木材を生産する経済的機能と国土の保全，水源の涵養，大気の浄化などの公益的機能と，風景観賞や保健休養などの厚生的機能を有し，この公益的機能と厚生的機能は森林のみが持っている特性的機能である。

藩政時代までは，森林の経営は公益的機能に中心がおかれていたが，明治以降は木材の需要の増加とともに，公益的機能を維持しながら経済的機能も発揮できるように林業経営が実施されてきたように考えられる。

戦後においては，荒廃せる森林の回復と木材の増産に拍車がかけられ，林業も企業的経営へと転換させられ，経済的機能を発揮することのみに専念し，森林のもつ特性である公益的機能と厚生的機能が忘れ去られとくにここ数年来経済的基盤の低い林業は危機に立たされた感じさえしていた。しかしながらこれと同時に自然に対する国民の要望は増大し，林業も森林の経済的機能のみでなく，公益的機能，厚生的機能を発揮できるように経営することが，これからの林業経営の進むべき道であり，新らしい林業経営の夜明けであり，林業のみのもつ特性を活かした合理的，恒久的な林業経営と考えられるようになってきた。すなわち森林生態学の研究は，これからの森林施業への基礎的理論を提供するものであり，大正末期より昭和の初期にその時代は一度消え去ったのであるが，今日再びその重要性が認識されることになった。

2. 調査方法

海岸林の場合は汀線より耕地に向って一定方向に植生の異る毎にコードラートを設置し（草本の場合はコードラートの一辺は2mとし，樹木の場合は最高樹高を一辺とする），喬木層，従喬木層，灌木層，草本層に分ち，各層毎に植物の種類別に優占度，樹高，胸高直径，本数を調査し，山岳の場合は海抜高100m毎にコードラートを設置して取纒めたものである。

3. 気候帯による宮崎県の森林植生

A）亜熱帯林

1）ビロウ，アコウ，タブ林

宮崎県の北部より南部にわたる日向灘に浮ぶ島の森林植生

2）都井岬ソテツ林

B）暖帯林

宮崎県の場合は海岸より内陸の山地の海抜900m以下の森林がこれに属している。

I．海岸林

1）コウボウムギ，ハマグルマ，ハマゴウ群集　2）ケカモノハシ，ビロウドテンツキ群集　3）クロマツ幼令林　4）クロマツ壮令林　5）クロマツ，チガヤ林　6）クロマツ，ヤマハゼ，アカメガシワ林　7）クロマツ，ナワシログミ林　8）クロマツ，ノイバラ，シャシャンポ林　9）クロマツ，ネズミモチ，クチナシ林　10）クロマツ，タブ林　11）タブ林　12）クロマツ，ウバメガシ林　13）シャリンバイ，ハマヒサカキ，マサキ低木林

II．内陸面

1）マテバシイ林　2）ツブラジイ林　3）カシ林　4）スダジイ林　5）タブ林　6）モミ林　7）ツガ林　8）アカマツ林　9）シキミ，ハイノキ林　10）ミズメ，アカガシ林

C）温帯林

1）モミ林　2）ツガ林　3）アカマツ林　4）ヒメコマツ林　5）ブナ，スズタケ林　6）コウヤマキ林　7）ツクシシャクナゲ低木林　8）ドウダンツツジ，ミツバツツジ，ミヤマキリシマ低木林　9）ヤクシマホツツジ，ツクバネウツギ低木林　10）ノリウツギ低木林　11）ヤシャブシ林　12）ハリモミ林